茅葺きの水車小屋よみがえりました

熊野第二小学校にある茅葺き屋根の水車小屋が18年ぶりに葺き替えられました。

この水車小屋は昭和59年に、第二小学校の大先輩で茅葺き職人の故溝口太郎一さんが、後輩のための学習資料として建てられたものです。18年の風雨で傷みも激しく、屋根の一部は茅が抜け落ち、小屋自体も北側に大きく傾いていました。茅葺き職人も少なく、また材料の茅も調達できず、放置されたままの状態でした。

この度、萩原在住の茅葺き職人澤木端吾さん（67歳）のご厚意によって、見事に屋根を葺き替えることができました。

作業は10月4日の足場作業から始まり、茅を葺く作業、棟を葺く作業、大型のはさみで茅を整える作業を終え、無事完成しました。完成までに約1週間かかりました。

高学年の児童は総合的な学習の時間の一環として葺き替え作業を実際に体験し、希少価値の高い職人技を間近に見ながら学習しました。

第二小学校では、今年度『見つめなおそう　ふるさと熊野町の自然と文化』というテーマで、1学期から「どじょう」の研究に取り組み、各方面から高い評価を受けていますが、「どじょう」に続く地域学習教材として、まだまだ地域に点在している茅葺き屋根（西中国茅葺き民家保存協会の調査によると、熊野町では約60戸が現存し、県内で一番多く残っているそうです。）と伝統の職人技に視点を当て、学習の計画をたてています。溝口さんが後輩に残してくださった意志を再びよみがえらせていただいた屋根師澤木端吾さんの職人としての誇りと心意気をくみ取り、学習を進めていくつもりです。

（学校教育課TEL820-5620）

パソコン入力コンクール全国大会入賞

熊野中学校では3年生の選択授業と情報技術部でタッチタイピングの練習をしています。タッチタイピングとはキーボードを見ないで文字を入力する技術です。速くて正確なタイピングは、高校や社会などで役立ちます。

昨年度から毎日新聞社の主催でタッチタイピングのコンクールが始まったので、熊野中学校も参加しました。生徒は習得が速く、5分間で300文字以上の日本語を入力できる生徒が半数を超えています。

9月22日に開催された今年度のコンクール決勝大会で、7位に入賞した中村夏深さんは5分間で776文字（原稿用紙約2枚分）を入力しました。

「私は今回の決勝大会にどうしても出たかったので毎日、パソコンルームに行って一生懸命練習しました。中学校生活でこんなに必死に取り組んだことはありません。毎日準大賞をいただき、がんばって本当によかったと思います。中学校生活最高の思い出ができました。」と中村さん。

また、濱本明斗くんは、「決勝のある東京へ行くのは今回で2回目ですがやっぱり練習をたくさんした甲斐があったと思いました。記録が伸びないときは苦しかったけどがんばって自己ベストを出せました。東京の大会では隣の人がものすごく速いので緊張しました。」と感想を話してくれました。

藤田絵理さんも、「決勝大会に進めたのは初めてです。前回は残念だったので、しっかり練習をして2回目に臨みました。今回、先生から地区選通過の知らせを聞いたときは嬉しかったです。東京の決勝大会に来ている人は、すごく速い人ばかりで驚きました。もっともっと練習して上手になろうと思います。」と感想を話してくれました。

（学校教育課TEL820-5620）

▲濱本くん、中村さん、藤田さん

エッ　サクラとコスモスが同時に！？

10月初めに町内新宮地区で見られた珍しい光景です。桜と秋桜が同時に咲いていました。